

関市立関商工高等学校

校長 中原 泰男

学校住所 岐阜県関市桐ヶ丘一丁目1番地 電話 0575-22-4221

1 会議の名称 第1回関商工高等学校運営協議会

2 会議の構成 委員 井藤 勝夫 元加茂高等学校長 中部学院大学入試広報課長
北瀬 美幸 関美濃保護区保護司
長谷部雅史 関市立関商工高等学校 P T A会長
波多野篤志 青協建設株式会社 取締役副社長
堀部 清子 国際ソロプチミスト関 会長
森 有生 関青年会議所 直前理事長
山田美穂子 関印刷有限会社 取締役社長
アドバイザー 長屋 千秋 各務原市産業活力部商工振興課人材確保相談員(元本校副校長)
山田 雄治 朝日大学経営学部経営学科教授(元本校校長)

(敬称略 50音順)

学校側 中原 泰男 校長
笠井 寛 副校長
丹羽 岳史 事務長
安江 博 教頭(全日制工業)
寺澤 喜孝 教頭(全日制商業)
林 剛史 教頭(定時制)
林 秀記 教務主任(全日制商業)
野口 晃弘 教務主任(全日制工業)
吉田 英生 生徒指導主事(全日制工業)
廣瀬 和俊 生徒指導主事(定時制)
藤井 博文 進路指導主事(全日制工業)
安藤 正夫 商業科主任(全日制)
牛丸 憲一 工業科主任(全日制)

3 会議の目的 学校に在籍する生徒の保護者及び地域住民の学校運営への参画及び連携の強化を推進することにより、学校、保護者及び地域住民が相互に信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善及び生徒の健全育成に取り組む。

4 会議の開催 令和6年6月13日(木) 13:30~14:45 至誠館2階
出席:委員6名 学校12名
欠席:委員1名 アドバイザー2名 学校1名

5 会議の概要 学校運営協議会について説明
(1) 令和6年度学校運営協議会委員の委嘱
(2) 委員・アドバイザー・学校側出席者紹介
(3) 委員長・副委員長の選出
(4) 学校側からの説明(スクールポリシーの説明や各分掌からの説明)
(5) 委員・アドバイザーからの意見・提言

※（３）委員長・副委員長の選出については、立候補がなかったため、事務局より推薦した２名について承認をいただき、委員長・副委員長を選出した。

委員長 山田美穂子

副委員長 井藤 勝夫（敬称略）

※（５）委員・アドバイザーからの意見・感想・質問など
（意見）

- ・スクールポリシーについては、よく練られており、わかりやすいものである。
- ・学校にとって地域との結びつきがメリットであり、使命でもある。
- ・最近どこの学校でも力を入れている「探究」についても、いろいろと説明をいただき、取り組みをされていることが分かった。探究活動とは答えのない問いに対して取り組んでいくものだと思うが、これが大学での学びであるとか、社会へ出たときの学びにつながっていく大きなものだと思う。探究活動に取り組んで、自分の頭で考えて、答えを出していくという過程が本当に貴重なものと感じている。最初は全員で取り組むことになると思うが、そこからいかに主体的にやっていくかが大事であり、またその先(将来)に学校の外とつながっていくものである。関市や地元企業との連携を通じて将来につながっていくものであることを期待している。
- ・文武両道という話もあったが、文武といえば学習活動や部活動、生徒会活動、探究活動などであると思うが、それぞれが大事であるという話をしたことがある。そこで学んだことが生徒の将来に大きくつながるものであると思う。
- ・定時制については、普通科の定時制とは状況は大きく異なるが、小中学校で不登校だった生徒が定時制では皆勤で卒業したというケースもある。理由としては一人ひとりに寄り添って、できたことを褒めたり、認めていくということをしたことが一因ではないかと思う。
- ・会社に勤めている社員の中にも関商工卒業生がいる。長続きしない者がいる中で、定時制の卒業生は入社してから10年以上ずっと続けている者もいる。その他にも関商工卒業生が入社後、やめそうになっても、仕事環境(部署)を変えたことで、もちなおして活躍している者もいる。そのようなことから、その人(生徒)に合った環境というものが重要であると考えます。
- ・ビジネスプラス展における関商工生の熱心な様子に感動した。
- ・適材適所が良いことを生み出すので、生徒の良いところをできることを伸ばして行って、1人1人きめ細かい対応をしていただいているということが先生たちの説明から見受けられるので、一層伸ばして行ってもらえればと思う。
- ・過去に定時制の交流について特集していたテレビ番組を見たが、そこでは生徒同士がお互いを尊重して生活しているのが印象に残っている。定時制は生徒数が少ないが、他校の実践も参考にして、少しでも社会に貢献できる人に育てていただければと思う。
- ・先生方は熱心な授業や生活指導、生徒と一緒にいろいろなことにチャレンジしていると感じている。そのようなことを通して、関商工の生徒や組織が変わっていったのか、目に見える形で、みんなに共有できるとよいと思う。
- ・本町ネクストのベンチなどの広場が作られているが、それがあってによって、町も変わっていくのではないかと思うので、気長に一つ一つ積み重ねて行ってほしいと思う。
- ・自転車のヘルメット着用について、生徒の様子を見てみると男子生徒はほとんどヘルメットを着用していない。心配なので生徒への周知をお願いしたい。
- ・関商工の入学人数を増やさなければならないということに関しては、関商工の特徴を出していくことが大事だと思う。部活が強い、学習環境が良いという点をPRしていけばよいと思う。
- ・これからはグローバルな時代と言われているが、それに対応して行って生徒に選んでもらう学校になっていくべきであるので、そのあたりにも力を注いでもらいたい。
- ・小中学校は、その地域の中だけであるが、高校は再スタートする場であると思っている。ま

- ずは頼りになる先生がいるかどうか、生徒にとっては大きい要素である。その次に部活動の先輩に頼ることができるか、といった人間関係がかなり大きいウェイトを占めると思う。いろんな意味で人間性を鍛えてもらえれば、それを特徴としてPRできるのではないかと思う。
- ・生徒指導について思うことは、関商工生は挨拶をよくするのだが、知らない人に対してはできないと感じることもある。学校外にも出ていき、挨拶をするなど、対外的な面も鍛えるべきである。
 - ・進路指導について、関市内の就職はありがたい話である。資格試験の費用などについては一企業として支援したいが、寄付金等を出せる環境にないので関市と協議するなどして、学生のために補助金を出すという制度をつくっていくこともよいのではないかと思う。
 - ・昨年度、関商工高の未来構想について、市へ提言をしていただいたと思うが、その後どのように進展しているか知りたい。
 - ・関商工を選んでもらうためには、何か特徴を出していくべきである。PRの方法というか、経営をするという意味で考えてもらいたい。
 - ・全日制、定時制ともに不登校の経験のある生徒が入学してくる場合もあるようだが、高校で不登校を繰り返さないようなシステムを学校も作ってほしい。また生徒の心の変化や動向を敏感に読み取ってほしいと思う。
 - ・そのような支援も日頃していただいていると思うが、学校内だけでは難しいこともあると思うので、行政や福祉などの各種機関と相談・連携をしてほしい。
 - ・自転車運転中のイヤホン利用を校則で禁止はできないのか。注意を促してほしい。
 - ・資格取得については取るだけでなく、そのあともずっと勉強が必要であることをぜひ生徒へ喚起してほしい。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会において、本協議会の設置運営及び学校運営基本方針等について説明し、全委員より承認が得られた。